島根日日新聞
平成30年（2018年）
1月6日（土）
発行所
島根日日新聞社
〒693-0001 出雲市今市町743-22
出雲 編集（0853）23-6760 営業（0853）23-6777 FAX（0853）24-3530
メール henshu@shimanenichinichi.co.jp
松江 TEL（0852）31-1041 FAX（0852）31-9205
雲南 TEL（0854）45-3991 FAX（0854）45-3993
大田 TEL（0854）82-7388 FAX（0854）82-7366
東京 TEL（03）3519-5575 FAX（03）3519-5836

バイオベンチャーと共同講座

島大医学部　免疫障害患者への治療薬開発へ

島根大学（服部泰直学長）とバイオベンチャーの株式会社RESVO（本社・東京都大田区、小林宣文社長）が5日、記者会見し、出雲市塩冶町の同医学部内に「免疫精神神経学共同研究講座」を開設したと発表した。講座は、統合失調症患者の最大30％を占める可能性がある免疫障害を原因とする患者への治療薬開発で、副作用の軽減や治療期間の短縮を目指す。

記者会見する、左から大西新特任教授、小林宣文RESVO社長、服部泰直学長、並河徹医学部長＝5日、出雲市塩冶町の島根大学医学部

共同研究講座は、大学と民間機関が共同の組織と研究費を持ち、専任教員を置いて研究を進め、資金提供先への成果の還元を行うのが特徴。同講座では3年間をめどに、RESVO提供の資金3000万円で、RESVO側3人、医学部側（精神医学講座）3人の計6人のスタッフが基礎研究と臨床試験を共同運営する。

管理学則を2017年度に改正した同大学は、総合理工学部とキグチテクニクス（島根県安来市）とで、特殊金属や炭素繊維など高温に強い産業用素材を研究する共同研究講座を開設しており、この講座設置が2件目となる。

会見には、服部学長と並河徹医学部長、RESVO側からは小林社長と同社取締役で、この講座の特任教授ともなる大西新博士らが出席、疾患や講座の目標などを説明した。

神経科学・免疫学を専門とする大西特任教授によると、統合失調症は幻覚や幻聴などが主訴の疾患。1950年代に神経伝達物質のドーパミンの活性化を抑える薬が開発され、現在も主流として使われているが、あくまでも対処薬であり、継続的な服用による肉体的精神的な副作用が甚大であり、全く効果のない患者もいるという。統合失調症患者は、人口の0・8％と言われ、近年の研究では、原因の最大30％が免疫の異常活性による可能性が高いとされる。根本治療薬の研究・開発資金を得るために設立したのが同社だ。

一方、同学部精神医学講座は一部の統合失調症患者に、08年には抗生物質のミノサイクリン、15年には漢方薬の抑肝散が免疫抑制剤として効果があることを世界に先駆け報告。17年には究極的な免疫正常化である骨髄移植によって根治した症例があることを発表している。

共同研究講座では、薬剤による免疫障害で、類似の病態を示すマウスを作製し、基礎研究と検査薬開発を行う一方で、候補薬による臨床試験を並行して実施。この基礎・臨床試験を3年間行い、その後の4、5年間で大手製薬会社での創薬につなげたいとしている。